

南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ①

富山県の南砺市は国際木彫刻キャンプと銘打って「木彫りを通して世界をつなぐ」をテーマに、世界各国から約二十名、国内から四名の彫刻家を招いている。

これは作家同志が現地に集まって、十二日間で制作の過程を一般に公開しながらそれぞれが楠一本を丸彫りして完成させていく。互いに親睦を深めながら彫刻芸術を広める四年に一度の国際交流イベントである。

まだまだ若輩と思う私ではあるが、大会から今年の八月、国内彫刻家の一人として招待を受けた。

出場を引き受けたからには、恥ずかしくない仕事をしたと思う。制作テーマは決まっており、今年「希望」。

そこで私は「アブラゼミの羽化」を与えられる楠木に彫刻することにした。

まず実際に粘土で彫ろうとするかたちを予習しておく必要がある。

私はこの冬、本物のゼミの抜け殻をもとに長さ三十センチ程度の粘土原型をつくり、FRP成型を試みた。

このゼミの抜け殻原型から脱皮して、飛び発つまでの体が成熟する寸前を表現するのが良いのか、(アイデア①)それとも、まさに背中から脱皮が始まってゼミバウアー(笑)している瞬間をつくるか(アイデア②)は迷うところではある。

そこで両方ともつくってみることにした。つくってみて思ったが、どちらかというときゼミバウアーしている方が彫刻的には面白いような気がする。

しかしながら、これを木彫作品として表現することが成功するかどうかは、やってみなければわからない。いざ彫ってみて、果たして大会期間内で完成させることができるのかどうか……。やってみなければわからない。

2023年1月



原型
アイデア①



原型
アイデア②